

執筆者紹介

Joshua S. Mostow (ジョシュア・モストウ)

ブリティッシュ・コロンビア大学教授

アメリカ・ペンシルヴァニア大学大学院において博士号取得。専門は日本古典文学・日本美術史。著書に、*Pictures of the Heart: The Hyakunin Isshu in Word and Image*. University of Hawaii Press, 1996、論文に「日本美術における王朝の「みやび」」（東京国立文化財研究所編『語る現在、語られる過去 日本の美術史学100年』平凡社、1999）などがある。

坪井秀人 (つばい・ひでと)

名古屋大学大学院文学研究科教授

名古屋大学文学部卒。同大学院文学研究科博士課程修了。金沢美術工芸大学講師・助教授を、名古屋大学情報文化学部助教授・同教授を経て現職。専門は日本近代文学、文化史。著書に『萩原朔太郎論 《詩》をひらく』（和泉書院1989）、『声の祝祭—日本近代詩と戦争』（名古屋大学出版会1997）、編著に『偏見というまなざし』（青弓社、2001）などがある。

韓京子 (Han Kyoung Ja ハン・キョンジャ)

東京大学大学院博士課程

韓国・ソウル徳成女子大学自然科学大学化学科卒。韓国外国語大学教育大学院（日本語教育専攻）修了後、東京大学大学院人文社会系研究科（日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野）博士課程入学、現在に至る。日本近世文学、特に近松の浄瑠璃を専門とする。論文に、「近松浄瑠璃における趣向としての歌謡・芸能」（『国語と国文学』2003年1月号）、「近松浄瑠璃の〈十二段物〉考」（韓国日語日文学会『日語日文学研究』45、2003.5）、「『源義経将棋経』の構想」（『日本文学』2003年9月号）などがある。

黄建香 (Huang Jian-xiang コウ・ケンカ)

上海交通大学助教授

1990年に中国・西安交通大学日本語学部卒業後、上海交通大学日本語学部に就職。1999年昭和女子大学大学院博士前期課程卒業後上海交通大学に復職。現在昭和女子大学大学院博士後期課程に在学。源氏物語、中日比較文学などを研究。論文に「『源氏物語』六条妃子之“物怪”原型論——以『霍小玉伝』和『離魂記』為中心」（中国『日語学習与研究』2000.3）、「六条御息所の生霊と芥子の香」（「昭和女子大学大学院日本文学紀要」、2000.3）、「試探呉方言対古日語的影響」（呉方言が古代日本語への影響）（「中国上海交通大学学報」、2001.9）など。翻訳『大脳常青80法』、教科書『実践日本語会話』などがある。

寺田澄江（Terada Sumie）

国立言語文化研究所（INALCO）助教授

国際基督教大学人文学科卒業、フランス・パリ第七大学東洋言語文化学部博士課程終了、極東学博士号取得後、現在に到る。詩学、特に和歌・連歌の修辭を研究の中心課題とする。論文に、La prose dans les anthologies de poèmes — Le cas des huit recueils officiels de la poésie japonaise — (Extrême-Orient Extrême-Occident, L'anthologie poétique en Chine et au Japon, vol. 25, 2003年) ; La double fonction des kireji (Japon pluriel 3, Editions Philippe Picquier, 1999年)、La dimension intertextuelle dans la poésie classique japonaise — 1. le rayonnement des réseaux poétiques autour d'un waka de Nôin (Daruma, vol. 5, 1999年) などがある。*Figures poétiques japonaises — la genèse de la poésie en chaîne* — (Collège de France, Institut des Hautes Etudes Japonaises) を近々出版予定。

丁貴連（Jeong Gwi Ryun チョン・キリョン）

宇都宮大学国際学部助教授

韓国・国際大学文学部日語日文学科卒。筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程（文学博士号取得）修了。筑波大学文芸・言語学系外国人研究者をへて1998年より現職。専門分野は比較文学・比較文化・東アジア交流論。論文に、「愚者文学としての「春の鳥」—田榮澤「白痴か天才か」国木田独歩「春の鳥」」（『比較文学』第45巻、2003）「啓蒙と無垢の間—韓国近代文学にお

る子供」（『朝鮮文学論叢』白帝社、2002）「恋愛、手紙、そして書簡体という叙述様式（上）—国木田独歩「おとづれ」と李光洙「幼き友へ」（『宇都宮大学国際学部研究論集』第12号、2001）等多数。

阮文雅（Juan Uen-Ia ゲン・ブンガ）

広島大学大学院博士課程

台湾・東呉大学卒業。広島大学大学院修士課程修了、現在に至る。専門は日本近代文学、特に中村地平を中心とする植民地文学。論文に「憧憬と嫌悪が交錯する地平—中村地平「熱帯柳の種子」を中心に」（『東呉日語教育学報』25、2002・9）、「中村地平「土竜どももぼっくり」論—「故郷」回帰と「南方的文学」の創出」（『近代文学試論』40、2002・12）、「中村地平「霧の蕃社」—重層的なジレンマ」（『現代台湾研究』24、2003・3）、「中村地平「長耳国漂流記」における台湾観」（『天理台湾学会報』12、2003・6）などがある。

Steven Clark（スティーヴン・クラーク）

イエール大学大学院博士課程

米国（ミネソタ州）カルトン大学日本語日本文学専攻卒。イエール大学大学院東アジア言語文学研究科（日本近現代文学専攻）博士課程在学中。現在フルブライト大学院研究生として早稲田大学大学院教育研究科滞在中。日本近現代文学、特に寺山修司の短歌、ラジオドラマ、評論、映画、演劇を専門とする。論文に“Terayama Shuji and the Internationalization of Experimental Theatre” (*Toward a Modern Japanese Theatre, Revisited*, 2004) がある。

Hosea Hirata（ホセア・ヒラタ）

タフツ大学教授

カナダ・マクギル大学卒、ブリティッシュコロンビア大学修士・博士課程修了。専門は日本近代文学。著書に *The Poetry and Poetics of Nishiwaki Junzaburo: Modernism in Translation*. (Princeton University Press, 1993)、*Discourses of Seduction* (Harvard University Press, 2004) がある。

朱衛紅 (Zhu Weihong シュ・エイコウ)

筑波大学大学院博士課程

中国・北方工業大学卒業。埼玉大学大学院修士課程修了後、筑波大学大学院文芸・言語研究科文学専攻博士後期課程に進学、現在に至る。専門は日本近代文学。論文に「佐藤春夫『車塵集』における古典和歌との交渉」（『文学研究論集』2001・3）、「大正期の国字改良運動とタイプライター—イデオロギーとテクノロジーとの交差—」（『明治から大正へ メディアと文学』2001・11）、「佐藤春夫「女誠扇綺譚」論—「私」と世外民の対話構造が意味するもの—」（『日本語と日本文学』2002・8）、「佐藤春夫における文明批評の方法—「魔鳥」論—」（『日本語と日本文学』2003・2）がある。

Oğuz Baykara (オウズ・バイカラ)

杏林大学大学院博士課程

トルコ・ボスポラス大学言語学学部卒。杏林大学大学院修士修了後、現在に至る。専攻は日本大正文学。著書に『基礎日本語—トルコ語辞典』、『日本語からトルコ語への旅（言葉の大冒険）』がある。『范の犯罪—志賀直哉短編集』、『藪の中—芥川龍之介短編集』、『刺青—谷崎潤一郎短編集』のトルコ語翻訳は印刷中。世界言語に興味があり、母語と日本語の他に、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語を話す。

Dennitza Gabrakova (デンニツァ・ガブラコヴァ)

東京大学大学院修士課程

ブルガリア・ソフィア大学日文学科卒。アメリカ・オレゴン大学東洋研究プログラム修士課程修了後、2002年より東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻・比較文学比較文化修士課程に在学。専門は日本近代文学、比較文学。特に、外国（異国）が舞台になっている作品。